



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

私の赤ちゃん

「段々深まる気持ち」

二、三日もすれば夫のジエイと私は息子が娘をこの世に迎える事になるでしょう。この子を宿して命、特に胎内の命を尊ぶ事についての私なりの考えを自覚出来た事は興味深いことです。妊娠している

と知った時から、私は自分を新たな見方で見るようになりました。自分の体の中にまだ感じることも、見ることもできないのに、そこに新しい命がいる事が分かって畏敬の念をいだきました。

夜遅く、私はまだ平らなお腹に手を当てて私の子どもに言葉をかけ、どんなに愛してるか、お腹にいることがどんなにすばらしく感じているか私の赤ちゃんに語りかけたものでした。また、私は神様に

も話しかけ、私の赤ちゃんをお守りくださいとお願いしました。世間の人たちのほとんどが私の妊娠を知らないのに、神様と私は知っていました。そしてこのまだ生まれてない子どもを慈しみました。

気がつくとは私は本屋に立ち寄り、胎児の写真が載ったお産に関する本を見ていました。さつとページをめくって、私が宿しているのと同じ頃の胎児の発育を表した写真を捜したものでした。そして夫にもその写真を見せ、「これが今の赤ちゃんの様子なのよ」と彼に言い、私たちは驚嘆してその写真を見つめました。その時はいつも彼の手が優しく私のお腹のあたりにありました。

二十週目には赤ん坊が

動くのを感じました。事もなげに二十週目や二十四週目での中絶を語る中絶賛成派の人の意見を讀んだ時、私はぞつとしました。私のように、体の中で赤ん坊が動くのを感じた事のある人であれば、どうして明らかに生きてるものを殺したいと思えるのでしょうか。

二十四週目には、私の赤ん坊に名前をつけ、その小さい生命の性格を想像しました。私は、私のかわいいアクロバット、その時している事によってサッカー選手だったり、タップダンサーだったり、体操選手だったりするので「と会話を続け、私の中にはまさしく本物の小さい人間がいるのだとわかりました。」

またその頃、私は二枚の超音波の赤ん坊の写真をバッグに入れて持ち歩いていました。それはこの子が生きていると、もつと

はつきり証明するものでした。一枚目は、生まれた子のミニチュアのように見える鮮やかな赤ん坊の輪郭を表していました。二枚目は、一枚目を撮ったすぐ後に撮影されたものですが、赤ん坊があくびをしているところが写っていました。そしてそれを見るたびになぜかしら私は嬉しくなるのでした。このように命の存在を証明するものがいろいろあるにもかかわらず、子供を宿した女性はどうして中絶反対になれないのかと不思議でなりません。中絶の記事を読むたびに、私はお腹を守るように抱いて、そんなことは決しておまえには起らないよと私の子どもを安心させるように言いました。

もう今は、私は九ヶ月目に入り誰もが私が妊娠しているのと分かり一般の人がどのような意識を持っているのか私なりにわか

りました。世論調査の結果がどうであれ、たいいていの人が、私のお腹の子は単に組織のかたまりではなく、新しい命であると信じているのです。

食料品店でカートを押してると、見知らぬ人が私と膨らんだお腹に優しく

微笑み、いつ生まれるの、とか気分はどう、と尋ねてくれます。人々は私の宿して

る命に引きつけられていて、守にさわるようにさわ

たがるのです。それはまるで彼らが命に触れて、その

力を再確認してるかのようです。妊娠して命を尊ぶ

ようになつたのではありません。それは生命を尊

び、私に何が大切かを教えてくれた両親や先生や友

達などと接するなかで、ずつと前から始まってい

たのです。しかし私にとって妊娠してその価値感が

今までとは違った様子で息づき始めたのです。なぜ

なら今お腹の中に宿して、もうじきこの腕に抱こうとしてる命を尊び慈しんで、毎日生活しているからなのです。

エリザベス・

ジョンソン

親と十代の性

Part 2

「婚前交渉がもたらすもの」

婚前交渉の大きなマイナス面は肉体的なものだけだと信じている人達がいる。これは避妊具を使ったり、あるいはそれに失敗しても中絶という手段で解決されるものだと思っ

ている。しかしこの考えは、若い男女が経験する結末をまったく無視して

いるとしか言いようがない。将来の計画を変えざるを得なくなる

親としての未熟さ
中絶で子どもを失う苦しみ

罪悪感、嫉妬、不安、恐怖心
愛着を持つほど感情が傷つけられる
エイズや性病（STD）と

の戦い

親や友達との付き合いあ

い方の変化
子どもを生むとはどう

いう事か。その際、十代の若者は何を経験するのだ

ろつか。彼らは貧しい生活を強いられる上、教育もあ

まり受けられず、60〜75%が離婚に終わる。この数字

は、妊娠したから結婚した場合には最初の半年で90%

にまで増える。このような現実を考えると、養子縁組は母親にとっても子ど

もにとつてもよい選択のように思える。

「養子縁組、前向きな選択」

今日の最大の悲劇は、子ども

の数が減っているにもかかわらず

多くの夫婦が養子縁組を望んでいる

事である。一九七十年には90%の十代の母親が養子縁組のためにわが子を

放している。それが今日では5%以下にまで減った。

養子縁組はきちんと行われて初めて子どもと親の

両方のためになるのだ。養子縁組に関わった人の体

験談をいくつか挙げてみよう。

「私を生んでくれたお母さんに感謝しているわ。」

と養子に行った四才の女の子が勤労感謝の日に話

している。あとでその子の養母も、生みのお母さんが

この子のために本当に良い道を選んで養子に出し

てくれたおかげで、それまで考えられなかったよう

な人生をあの子は与えてもらった。そこに至るまで

苦しみもあつただろうが、それと同時に純粋で本物の愛を得た事でしょう。」

ある養母は生みの両親に手紙を書いている。

「数年前あなたが養子に出してくれた女の赤ちゃんの動きは魔法のよう

で、一日一日を喜んでい

るよ

うに思えます。この子が大きくなったら、どんなに生みのお母さんに愛されていたか、そして生みのお母さんも私達と、同じように喜びを共にする事が出来るのだとこの子に教えるつもりです。大人になったらあなたのお母さんを知る機会があればいいと思います。きつとあなたもこの子を誇りに思うはずです。そして、私があなたにお目にかかった時には、あなたを抱きしめて、この命の贈り物に対する感謝の気持ちを伝えたいと思います。」

そして最後に、養子に出すため自分の子を手放した十七歳の少女が友達に宛てた手紙を紹介しよう・・・

「女の子みんなに伝えたい事があるの。初めて自分の息子を抱いた時、私はひどく落胆して『これから先、何のために生きるのだから』と独り言を言ったわ。でもそれがひどく馬鹿

げた事だと気がついたの。私は自分に向かって、あなたはまだまだこれからよ。出産の喜びなど考えられなかつたあなたにこんなにすばらしい赤ちゃんが産めた・・・そんな一風変わった誇りも持てたじゃないの。もう二度と何のために生きようかなんて言わないの。だって一緒に住まなくても、どこかで息子がいるのだもの。いつか結婚するだろうし、きつと子ども生まれるわ。見ていてください。必ず成長して見せます。もう誰にも何も言わせない。だって私はこの世にすばらしい贈り物をしたのだもの。それを誇りに思っている限り、恥じたりする事はないの、どうして迷う事があるかしら」

受精能力のある人はだれでも親になれる。しかしよい親になるためには感情的に成熟していて、無私の愛情を持っている事が求められる。出産の瞬間に

「貞潔は最良の選択」

十代の若者の婚前交渉の原因はセックスの衝動に駆られてという事だけではないようだ。真の理由は、若者が孤独だったり薬や酒をやっていたり、虐待されていたり、長い目で「将来」も考えられなかつたり、仲間の圧力があつたり、「ノー」と言う勇氣を持たなかつたりする事にある。ピルやコンドームがこれらの問題を解決してくれる訳ではないし、性行

為も解決とはならない。このような複雑な問題の解決策はそう簡単には見つからないのである。

貞潔は体にとつても、また社会的・感情的に見てもいい事と言えよう。

貞潔に関する教えは自制心や尊敬心、責任感や信頼など価値のあるものを強化するからである。

「貞潔は教えられるだろうか？」

親は、子どもが九歳から十二歳くらいになった時に生命の事実を、話して聞かせる」とそれだけで安心してしまふ。しかし、子どもが一度に膨大な量の情報を消化しきれないという事実を見落としている。

三歳の子に一度テーブルマナーを教えただけで、その後二度と同じ説明を繰り返さず、またその他の礼儀作法の話に発展させない親がいるだろうか。性についての説明は何年もかけて理解させるものであり、数時間で片付けられるものではない。生物学的な事はそれほどないのだが、大事なものは精神的に成長させる事と健全な対人関係を築けるようにさせる事なのだ。

十代の若者の親は子どもの中のこの重大な時期にきちんと向かい合つて行かなければならない。そうすれば、若者が社会的・精神的に成長するにつれこれらの情報は吸収されていくものである。場合によっては、男女それぞれの特有な発育について議論するため、若い男女を別々にしてみるのもよいかもしれない。

貞潔教育は効果的にできるものだ。具体的な指導をしたならば、結婚前の貞潔を実行する若者の数が増えている事がデータからもわかる。

(A) 結婚前の貞潔を実行する際、助けとなるもの

1・宗教 若者がその決まった教えを信じて守るといこと。

2・親として親しみ易いことが望まれる。親近感は学べるものだからである。信頼は事実に基づいた正確な情報から成る。尊敬されるために親自ら努力を積み重ねなければならぬ。

3・将来指導は、若者に長期的視野を持たせ、自分のゴールに向かって進むべきかを考えさせるものである。

4・十代の若者は節度を守るとい観念がある。だから結婚前の貞潔も理解している。

(B) 十代の性行為に関して：

1・薬やアルコール、無謀な振る舞いは、セックスの機会を与え易い。

2・ある調査によると、若いうちから異性と付き合っている人ほど性活動が活発になる。そういう機会が増えるからというのがその理由だ。

3・過去の性体験(性的虐待や近親相姦を含む)が十代の性行為を更に危険なものにする。

4・低レベルな将来指導しか受けていない若者は目の前にあるチャンスを見逃しがちになる。彼らにとつては、「セックスして何を失うの?」という感じなのだ。

5・婚前交渉をしている十代の若者は性行為を頻繁に行っているグループの仲間入りをしている率が多い。

「続く」

神はなぜ異常のある

新生児を見過ぐすのか？

数年前、中年の夫妻が私のもとへ相談に訪れた。奥さんが妊娠したが、お腹の子は小人症と診断されたという。苦悩のさなかでありながら夫妻は、神はなぜこんな事をお許しになるのか、その理由を知りたいと思つた。日曜日は必ず教会へ行つているし、思い当たる限りでは悪い事をしたり、誰かを傷つけた覚えもない。なのになぜ自分たちが？こんな目にあうような何かをしたというのか？

神はなぜ異常を持つ新生児を見過ぐすのだからう？なぜこの世の苦しみを認めるのか？どうして悪の存在を許すのだからう？質問の形は違つても、聞きたいことはひとつ、万物を愛する全能の神がこの世の悪と苦しみをなぜお許しになるのかという点だ。全能でありながら、苦しみを逃れるよう手をさしのべてくれないなんて、本当に万物を愛していると言えるのか？神が苦しみを黙認し、場合によっては御子である我々を戒める事もあるというのなら、誰も神に頼れなくなつてしまつたらう。

我々が生きている間に遭遇する苦しみは、本質的に次の四つに分類される。

1・個人の行いや習慣から生じる苦しみ「食べ過ぎ、運動不足、愛煙家、これでは体の不調や故障を免れようがない。不正を働いた配偶者以外の相手と性関係をもつたならば、罪の意識もしくは性病に悩まされるだろう。」

2・社会不正によって生じる苦しみ「我々の住む社会は不完全そのものだ。被害をくいとめられる人間がそれをしなかつたり、他人に苦痛を与えようとくむ者がいるために苦しみが生まれる。

3・事故や偶然など、人間の力の及ばぬところで起こる苦しみ。

4・一般的成長過程における苦しみ。乳児期に歯がはえる痛み、自己の確立や周囲からの独立を欲する思春期の心の葛藤、年をとるにつれだんだん体力が衰えていく悲しみなど。誰もが、何らかの痛みや苦しみを感しながら生きている。

しかし、苦しみは今始まったものではない。人類の始祖が住んだエデンの園の時代からすでにあったものなのだ。神は女(イヴ)に向かって言われた。

「お前のはらみの苦しみを大きなものとする。お前は苦しんで子を産む」(創世記3:16)。「人間の墮落」の前からすでに我々の始祖は苦しみを経験していたが神との密接な結びつきによって耐える事ができた。神の御前で入浴をし、神に見えるところで生活をしていたため、苦しみを乗り越えることができず、たし、そもそも苦しいとすら感じていなかった。死さえも恐れる事なく、精神世界への開放とみなされていた。

だが、原罪によって、人間は神との一体感を失い、次のような不調和を招く事になる。人間と神の不調和、自分自身の中の不調和、自分と他人との不調和、人間と地球の不調和、この4つである。「人間の墮落」以前は、人間の支配が全く及ばなかった知性が、原罪の結果、支配可能なものになった。墮落以

前、アダムとイヴは自分たちの姿を恥ずかしいと思わなかったが、墮落を境に裸であることを恥じて隠すようになった。

ローマの信徒への手紙5:4にこう書かれている。「私達は知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を練達は希望をうむということ。希望は私達を欺くことはありません。私達に与えられた聖霊によって神の愛が私達の心に注がれているからです。」

私達が、こうして苦しみを耐えぬく事が出来るのも、ひとえに罪人である私達に代わって死んでいったキリストのおかげだ。キリストの死から現在まで、私達は神を受け入れてきたし、キリストの生き方によって救われたと確信している。

みや悪を善しとするのだらうか？もしこの世に困難や悪が全く存在しないとしたら、自分の心や自由意志を実現する場がなくなってしまう、自由どころかその逆だらう。だが神は、私たちへの愛の証に選ぶ自由を与えてくれた。モーゼの十戒に「すべきかすべきでないか……」の戒律がある。我々には従うか否かを選ぶ自由があるのだ。これこそが自由そして愛だ。

「でも、障害児が生まれるのを見るなんて耐えられない。それくらいなら中絶したほうがまし！」という理由で、どれほど多数の無力なる命が墮胎されている事か？優秀な生徒の時、上級生が立つて次のような発言をした。「私は絶対に賛成です。赤ちゃんを養子にやっってしまう、その子がどこにいて何をしているかわからなくて悲し

むよりはいいと思うからです」健康な赤ん坊に關してもこのありさまだ！

かつて一度も苦しんだ事のない人がいるだらうか？苦しみを悪と切り切れるのか？世の中はすぐ結論の欲しい、「インスタント」流行で、物事をその場しのぎの安易な方法で解決しようとする傾向にある。苦しみを悪しきもので拒絶すべきとみなされている。頭痛か歯痛がする？ならば薬を飲みなさい。苦しいのを我慢する必要はない。お腹がすいた？インスタントラーメンがあるじゃない。子どもができた？中絶すればいいじゃない。未婚の母になって、苦勞するのはご免だ。現代人はあまりにも利己的で自分勝手に、しかも無責任で物事を真剣に考えようとしなくなっている。特に、一人か二人子どもをもつ世代の家庭にその傾向が目立つ。しかし、異常

すべきなのです！私は何人も聖職者が、教区民から生命擁護関係の文献を与えられたり、『沈黙の叫び』などの生命擁護関係のビテオを会衆に見せても良いかを聞かれたりして初めて関わりを持つようになったのを見てきています。

もし一つの信徒会に生命擁護活動家が何人かいた場合、自分の教区や他の教区の聖職者に約束をと

りついたり、彼らの生命擁護活動の情報を交換するのに時折役立ったりします。また、信徒が、すでに活動している聖職者にお願いして、まだ活動に参加していない聖職者を生命擁護活動をしている聖職者の団体に誘うようにすることもできます。一人の聖職者が他の聖職者を活動に引き込むのはいつも簡単なことなのです。

もし、聖職者の助けと指導力を得るための努力が

失敗に終わったとしても、あきらめてはいけません。そう、確かに挫折感を感じるかも知れませんが、でも、一人の人間の成し遂げられることを軽く見てはいけません。

ジエームズ・O・

モート司教

「心から

私に立ち帰れ」

旧約聖書はさまざまに表現で繰り返す、己の罪と世界の罪を悔い改めるよう、我々に呼びかけている。中絶という合法的殺人によって無数の声なき子どもたちが死んでいくなか、神のあわれみを望むのであれば回心が必要だ。そうすれば神が世界を救い、これまで神を見いだせなかった人にも英知を注いでくださるだろう。

「選択」「権利」「生殖器治療」等の単一語が中絶という罪悪行為の同義語であるうえに、事実隠蔽の目的で使われているなどはロケット工学者には、想像もつかないだろう。この21年間に育った若者たちは、中絶に対する知識が浅く、手術後どうなるかも、なぜ中絶がいけないのか

もわからないありさまだとの話題について話しあうたびに、世間の人が、実態を知るまで中絶の事をどうとらえていたかを聞いて、驚かされる。きっとあなたにも同じ経験があるはずだ。なぜこんなにも簡単なことが、現実社会では複雑な問題となってしまうのだろうと思ひ悩んだ事が。ヨエル書の2章にその答えを見つける事ができる。

神は今、この瞬間にもあなたの側におられる。

神はただ一言「今こそ、心から私に立ち帰れ」と言われる。

主は我々ひとりひとりをみな受け入れてくださる。恐怖や悩みなどすべてを主に投げ出しなさい。

「主は、慈しみに富み、恵みに満ち、あわれみ深い方」だから。

神の呼びかけと愛にもっと積極的に応えよう。人に接する時、中絶が子どもにもたらす影響を思う時や、合法虐殺を阻止するために働きかける時にも。神はすべての人の前に存在することを、隣人に教え